

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0370101917		
法人名	有限会社 快互		
事業所名	グループホーム都南太陽荘		
所在地	盛岡市津志田中央二丁目3番20号 (電話) 019-639-7140		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	3月24日

【情報提供票より】(20年11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和<平成> 16年 10月 4日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20人	常勤	13人, 非常勤 7人, 常勤換算 18人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	16,800+冬季加算円
敷金	有(円)		無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	- 名	要支援2	- 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	73 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	山田内科クリニック、(社)栃内第二病院、松館歯科医院、瀬川歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道4号線に近く、都南地区で盛岡市内では比較的新しい住宅街に立地している。鉄筋コンクリート造りの建物であるが、内部は天窓からの柔らかい採光で明るい落ち着いた雰囲気をかもし出していることと相まって内装に木材を多く使い暖かみのある居住空間を作り出している。玄関先の中庭は、あまり広くはないが、利用者により菜園と花だんに活用され、戸外活動と季節を感じることに資している。今年4月から介護にかかわるダブルKM運動に意図的に取り組んでいる。この運動は目配り(M)・気配り(K)・気働き(K)を大切にサービスの質の向上に努めていることである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題については、真摯な取り組みをされており、更に努力を期待したい部分もあるが、これも努力をして来た経過の中で今少しという感じのものである。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職場で評価の作業を実施する中で評価の意義も理解すると共に自己評価に取り組むことを通して次に向けた評価のあり方も考えている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の討議内容は、グループホームからの状況報告とその時期に応じた話題、例えば避難訓練、敬老会、外部評価、家族会、地域との関り等々であり、多種にわたっていることが議事録から読みとれる。会議は2ヶ月に1回ペースで開催されており、利用者の家族代表が会長を務めているし、話し合いの結果は可能な限り運営に反映するようにしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、家族会、アンケート、来所の時、ケアプラン作成時等、あらゆる機会に汲みとるようにしている。苦情は現時点では寄せられていない。どんな意見に対しても、スタッフで話し合う中で対応すると共に、運営にも反映するように努力し、柔軟に取り組む体制をとっている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の「ひばり自治会」にも加入している。地域とのつきあいは積極的に進めていこうと考え、運営推進会議でも提起したが、自治会の回覧板などホームにも回して欲しいことを要望したい。ホームとしては今後一層、日常生活における地域との連携のあり方を求めた取り組みをして行こうとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として「個人の尊厳・共生、協働の精神・自己実現への導き」を掲げ、これに「地域との連携、思いやり」を加味し、都南太陽荘独自の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を目に見える場所に掲示すると共に、会議や「目配り」「気配り」「気働き」のダブルKM運動の推進の中で共有するように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の「ひばり自治会」に加入し、活動に参加するよう努めている。また、地域配布用の広報にも取り組んで行くと共に、一方自治会の回覧等にグループホームについても回して貰えるよう配慮いただくことを願って行きたい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自分たちの支援活動を全職員で省みる中で、評価の意義やあり方を考えながら、職員個人としても、組織としても、自己評価と外部評価を真摯に受けとめ、次の取り組みに活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回と、定期的で開催しており、サービスの状況、地域とのつきあいのあり方など様々なことが話し合われており、運営に反映されている。もっと多角的な意見を求める意味で地域代表者数を増やすことも一つの工夫かなと思われる。利用者の家族さんが会長であることはユニークである。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは不明な点や各種相談ごとなど連絡を取り、サービスのあり方が共有できるよう事務指導や助言を受けるよう努めている。	○	運営推進会議にはオブザーバーで参加してもらっても良いと思うし、常日頃、市の担当者との間に行き来する機会をつくって諸問題を話し合っていく中で、グループホームのあり方を共有できる取り組みを更に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	色々な機会を捉えて近況報告に努めているが、中心になるのは2ヶ月に1回、各スタッフによる手書きの交流手紙である。急を要することは、その都度報告している。小遣い帳はその(小遣帳の)コピーを毎月家族に送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なアンケート、家族会議、ケアプランの説明時など、機会あるごと、家族の意見や要望を求めており、運営に反映する努力をしている。苦情は現時点では特にない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一斉にはないが、今年度になって数名の退職者(秋桜・鈴蘭)が出たが、2つのユニットの職場は日常の交流の中で、両方の利用者に馴染みになっており、勤務等の振りかえ工夫を行って利用者のダメージを極力少なくするように配慮した。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら仕事を覚える(OJT)新人研修の取り入れと、外部研修については、時期、研修内容等を掲示、スタッフはそれによって希望する研修に参加できるようなシステムを取っている。勤務に支障のない限り研修には出やすい状況である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会・盛岡第一ブロック及び近隣のグループホームとの交流研修など、ネットワークの中でサービスの質の向上に向けての取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、本人と家族に来所を願って、見学していただくこと。利用後、家族に頻りに訪れていただくことで心を落ち着かせながら徐々に馴染んで行くようにし、また、家族との相談にも応ずる。体験利用等は行っていない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	2項で前述した「ダブルKM」運動を推進する中で、尊敬の念、耳を傾けることを大切に考え、人間として共に生活していることを念頭におき、日常のケアに取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これも「ダブルKM」運動の中で、「同じ事を何度言われても耳を傾け、気持ちを正確に掴む。」「小さな変化も見逃さない繊細さを持つ。」などをあげて具体的にスタッフが取り組んでいる。また、日常のカンファレンスで利用者一人ひとりの希望の具現化にも努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活で利用者の意向とケアプラン作成にあたって事前に家族の意向や意見を把握し、全スタッフのカンファレンスで、利用者一人ひとりの状況に即したケアプランの作成に努めている。ケアプランとその実施にかかわる記録整理も見やすいように改善している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月に1回を原則としているが、利用者の状況に応じてカンファレンス等によるスタッフ全員の意見交換を踏まえ、家族や関係者とも相談の上、見直しをしており、あくまでも現状に即した対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の場合のかかりつけ医への通院は原則家族が同行することとしているが、家族の要望や同行できない事情によってホーム側で対応するなど柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の意向を基本に決められている。近隣の山田内科との連携を強めることで緊急時の対応にも取り組んで行きたい。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、「看取りに関する指針・グループホーム都南太陽荘における看取り介護実施の定義」を準備中である。また、近隣の山田内科医院との連携と、職員の学習によって、体制を確立して行きたい。	○	今、進めている指針を確立すると共に、近隣の医院との連携を進め、重度化や終末期に対する取り組みを進めて行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	部屋、風呂場など、のれんで中を見られないような工夫をすると共に、羞恥心に配慮するマニュアルによってスタッフが個人のプライバシーを損ねないようなあり方について共有することに努めている。また、個人情報の管理は事務所に一括保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを大切にしている。訪問した当日も、歌を歌っている人達、カードゲームをやっている人達、昼食の準備をしている人、テレビを見る人など、それぞれの様態から、日常が垣間みられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは出来る人はやっている。湯飲み、ご飯茶わん、はしなど個人用の物を使用しており、時には、献立とは異なり個人の希望や好みを活かした柔軟な取り組みをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日14:30～18:00の時間帯に希望する時に出来る。快く入浴出来るよう事前の声かけなどと体調などのチェックをし、一人ひとりの状況の把握にも心がけている。入浴可否基準についても看護師とスタッフで作成した。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴、趣味、意向などの把握に努め、それらが活かせるような支援に工夫を凝らしながら日常の生活が送れるようにしている。それが、21項目に記述したような「個人のペースを大切にしている」という状況である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	食材の買い出し時に希望によってスタッフに同行したり、体調や天候を見ながら毎日の外出支援に努めている。また、冬場を除き、中庭の菜園兼花だんを活用した戸外活動をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけない。利用者の行動を制限しないよう努めている。鈴蘭にはエスケープする(外出傾向の)利用者も見られるが、秋桜の職員とも協力し、利用者の心を受けとめ制限する扱いをせず見守りを続けたい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行なうことにしている。今年は7月に1回実施した。災害に備えてマニュアルを作成しており、消防署との連携を取ると共に、地域連携の体制も整えるように努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分の摂取は健康チェック表やケース記録で確認しながら、一人ひとりの支援に努めている。栄養摂取については、職員が食べ物の本(献立、カロリー等)を利用学習しながらバランスのある献立を工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダー、時計も備え、吹き抜けの天井からの採光もほど良く明るい落ちついた空間になっている。テーブル、ソファなどゆったりした配置で思い思いで過ごせる状況にある。玄関前には菜園と花だんに活用している中庭があり、戸外活動と季節感を助長する大切な空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みのある物を持ち込み、利用者本人が自由に快適に過ごせる空間づくりが行なわれていた。		